て、佛師ども百人ばかりなみゐてつかうまつる、おなじくはこれこそめでたけれとみゆ、御だうのうへを見わぐれば、たくみども二三百人のぼりゐて、大きなる木どもには、ふときををつけて、こゑをあはせておさへ、さとひきあげさわぐ、御堂の内をみれば、佛の御座つくりかゞやかす、いたじきを見れば、とくさむくの葉などして、四五百人手ごとになみゐてみがきのごふ、ひはだぶき、かべぬり、かはらつくりなどかずをつくしたり、又としおいたる翁法師などの、二尺ばかりの石を心にまかせてきりめと丶のふるもあり、池をほるとて、四五百人おりたち、山を疊むとて、五六百人のぼりたち、又おほぢのかたを見れば、ちから車にえもいはぬおほきどもにつなをつけて、さけびの丶ゑりひきもてのぼる、かも河のかたをみれば、いかだといふ物にくれ材木をいれて、さをさして心ちよげにうたひの丶ゑりてもてのぼるめり、大津むめづの心ちするも、にしはひんがしといふ事はこれ成けりとみゆ、磐石といふばかりの石を、はかなきいかだにのせてゐてくれどしづまず、すべていろ〳〵様々いひつくしまねびやるべきかたなし、かの須達長者の祇園精舎つくりけんもかくやありけんと見ゆるを、冬のむろなつの風おの〳〵ことゞ〳〵なり、かゝる御いきほひにそへ、入道せさせ給てのちは、いとゞまさらせ給へりとみえさせ給にも、なほなべてならざりける御ありさまかなと、ちからみたてまつる人はたうとみ、とほきひとははるかにをがみまゐらす、いまはこの御堂の木草ともならんとおもへる人のみおほかり、

〔古事談六亭宅諸道〕宇治殿、〔藤原頼通〕京極殿〔頼通子師實〕ヲ御車後ニノセテ御行アリケルニ、二條東洞院二町ヲ築籠テ、大二條殿〔頼通弟教通〕被造作ケルヲ御覽ジテ、京中ノ大路ヲモカクハ籠作ニヤト令申給ケレバ、打任テハ不可有事ナレドモ、我等ガセム事ヲバ誰カハ可咎ヤト被仰ケリ、仍高陽院ヲバ四町ヲ築籠テ令作給云々、

〔續古事談一王道后宮〕後三條院ハ、春宮ニテ廿五年マデオハシマシテ、心シヅカニ御學問アリテ、和